

平成30年度 自己評価（活動計画）

学 校 教 育 計 画		香川県立多度津高等学校		
教育方針	(1)自ら学び、考え、行動する意欲や能力を育てる。 (2)夢や理想に向かってチャレンジする精神や態度を育てる。 (3)自然との共生について認識を育てるとともに、伝統文化を理解し尊重する豊かな知性や教養を育てる。	(4)社会の担い手としての、望ましい勤労観・職業観や社会奉仕の精神を育てる。 (5)一人一人の個性を磨き、豊かな道徳性やたくましい精神力・体力を育てる。		
前年度の成果と課題		本年度の重点目標	具体的目標	
<ul style="list-style-type: none"> ミニ水族館を昨年に引き続き公開した。それに併せて緑のカーテンも公開できた。 地元企業でのインターンシップや地域の老人ホームへのボランティア活動を行った。 ホームページの更新の回数を増やして、最新情報の公開に努めた。 造船コースに県外や企業からの派遣講師を依頼し、教育内容の充実を図っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域や産業界と連携し、専門教育の充実と学校の活性化を図る。 創立100周年に向けて記念事業準備委員会を設立する。 造船コースについて、2年次の授業や実習を検証し、改善点を考察する。 新実習船の運航について最終調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップやボランティア活動を通して自身の専門性や人間性の向上を目指す。 100周年記念事業としてメモリアルホール建設、記念誌発刊、記念式典等の計画に全職員で取り組む。 派遣講師がうまく機能するような実習計画を確立する。 指導教官の割り振りを決定し、本科、専攻科生の指導体制を確立する。 	
評価項目	本年度の主な活動目標	主な具体的方策	評価 中間 年度末	
1	総務 本校の100周年を見据えて校内の美化・緑化を推進する	校内の空きスペースに芝桜を植える 芝生アートを充実させる	B B	
2	教務 各科や学年団の業務や学校行事等が円滑にできるようにする	各科や学年団と連絡を密にし、業務の見直しや内規の見直しを行う	B B	
3	特別活動 ボランティア活動への取り組みの活性化	十数年内に発生が予測される南海トラフ地震に向け、互助の意識向上を目指す	A A	
4	生徒指導 校内外での規律確保	校内巡視の徹底 厳正な授業態度の徹底	C B	
5	教育相談 生徒情報の効率的な共有化	配慮が必要な生徒の情報をパソコンで管理し、いつでも各教員が確認できるようにする	A A	
6	進路指導 適切な進路情報の提供	校内LAN、インターネットなどの活用により情報提供と進路相談の充実を図る	A A	
7	人権・同和教育 人権問題について正しく認識させる。問題解決の力を身に付けさせる	参加型学習形態のロングホームルームのねらいを絞るとともに、使用教材の精選をはかる	B B	
8	保健管理 保健指導の徹底や生活問題の個別指導を行う。	自分の体調やけが等事後処置の大切さ・予防や健康に関する指導を行っていく	A B	
9	いじめ防止対策 いじめの早期発見に努め、深刻な事態を未然に防止する。	日頃の生徒の様子や言動の変化に注意を払うことや、調査の情報を有効に利用する。	B A	
学年団	1年団 社会性や公共心を身につけさせる	生活態度、服装や頭髪の整備、出席状況、学習態度などの基本的な生活習慣を身につけさせる	A A	
	2年団 具体的な進路目標を早い時期から持てるように指導する	進路指導部および各科と連携して、生徒が進路目標を設定できるように保護者に協力を仰ぐ	B A	
	3年団 生徒の希望する進路目標達成のための適切な指導にあたる。	進路決定をスムーズに行う。どの生徒に対しても公平・公正に指導できるようにする	A A	
教科指導	普通科	国語 自分の言葉で事実や意見を的確にまとめ、伝える力を高める	読み取ったことについて意見を交換したり、文章にまとめたり、発表したりする	B B
		地・公 基礎知識の定着を図り、就職や進学に役立つようにする	興味・関心をひき出す話題や教材の提示 ノートの整理やワークシートへの用語記入の徹底	C B
		数学 基礎学力の定着	課題提出の徹底 追試や補習授業など特別指導および個別指導	B B
		理科 科学的な思考を習得させ、進路に必要な学力や自然観を育てる	演示・生徒実験を効果的に実施することにより、科学的な思考を身につけさせる	B B
		保健 身近な健康問題や健康の考え方、知識を学習する	健康自体のとらえ方や健康のために個人や社会に求められている変化を理解する	B B
	専門科	芸術 基本的な技術を身に付け、表現活動の中で美に対する感性を養う。	ワークシートを活用し、到達目標を具体的に設定しておき、主体的に学習できるようにする	B A
		英語 英語に興味関心を持たせる	生徒が退屈しない授業を心がける。	C B
		家庭 家庭生活に必要な基礎基本の定着を図る	個々に活動する実習を積極的に取り入れ、技術の定着を図る。	B A
		機械 機械等に高い関心を持つ生徒を育成する	生徒だけでなく、教職員自身が積極的に現場や工作機械を見て、その魅力等を生徒に伝える	A A
		電気 専門分野に関する基礎知識や技能を身につけた電気技術者を育てる	電気の専門教科に興味関心が持てるようになりやすい授業を行う	B B
専門科	土木 専門分野の基礎的な知識・技術を定着させる	土木分野の魅力を伝え、学習の動機付けを行う	A A	
	建築 建築に興味・関心を持たせ、全体的な学力向上を目指す	現場見学などを企画し自発的な参加を促す	B A	
	技術 実習指導の充実・安全教育の推進	望ましい勤労観、道徳心や社会性、一般常識の育成を図り、安全教育を推進する	B A	
	生産 教科の専門性を高め、生徒の学習意欲を高める	新たな養殖魚や水産加工品を開発させる	C C	

A

※年度末評価（最終目標達成見込み）： A 80%以上（順調に実施でき目標を達成できた） B：79～60%（やや遅れ気味であったが目標は達成できた） C：59～40%（遅れ気味で目標達成が難しい） D：39%未満（年度内の目標達成が困難である）